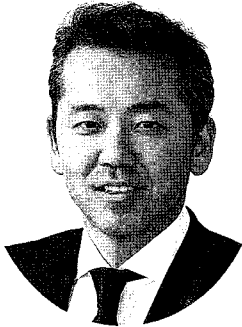


年頭のご挨拶



(一社)富山県測量設計業協会
会長 市 森 友 明

新年あけましておめでとうございます。

令和6年の新春を迎え、協会員の皆様方をはじめ日頃から当協会の運営に対して、ご理解とご支援を頂いております発注者の皆様、そして関係機関の皆様方のご健勝を心からお慶び申し上げます。コロナウィルスの影響減少から、我が国の経済活動が回復すると共に、各団体活動も数年ぶりに本格化する等、皆様におかれましては、多忙な1年をお過ごしのことと存じます。コロナ禍の状況は、リモート交流の進展をもたらしましたが、改めて、お顔を直接会わせる交流のありがたみ、嬉しさを感じた次第です。

さて、昨年の災害を振り返りますと、例年同様各地で大雨による被害が発生しました。富山県におきましても、令和5年6月28日の立山町を中心とした豪雨、そして、7月12日の線状降水帯による広域にわたる豪雨により、多くの災害が発生しました。富山県内では、床上・床下浸水628棟の被害が発生した他、道路や河川、農地に大きな被害が発生しました（令和5年災害情報一覧、総務省消防庁より）。

このような状況において、当協会は、県内各自治体からのご要請を受け、災害協定に基づき、全組合員を挙げて、災害復旧調査設計業務に携わりました。依頼された被災カ所は、合計1,300箇所を上り（協会調べ）、当初は協会員だけでは対応できない数量と想定され、隣県の協会への応援要請を検討しましたが、隣県も災害対応で多忙であり、当協会のみで対応せざるを得ない状況でした。しかしながら、富山県庁様や各市町村様に、遂行中の委託業務の履行期限延長や、

災害査定業務の簡素化等のご協力をいただいたことで、県内協会員で対応することが出来ました。改めて、皆様から頂いたご厚情に感謝申し上げます。また、休日返上で作業にあたっていただいた、協会員企業の社員の皆様、ありがとうございました。

また、今回の災害対応を通じて、発注者・受注者双方の災害対応経験蓄積の重要性や、新技術による対応迅速化の可能性が認識されました。これら知見は、次年度以降に発注者様と共に、次の災害に備える上で、情報を共有する場を設けたいと考えておりますので、何卒ご協力の程、よろしくお願いいたします。

さて、協会活動の話題に変わりますが、担い手育成における測量士専門学校への250万円の奨学金支出を行っていましたが、令和5年4月に1名の対象者様が入学されました。担い手不足解消には大海の一滴ではございますが、大きな一歩を踏み出したと理解し、引き続き支援を行って参ります。また業界の認知度を高める活動として、昨年も計32校の高校を訪問し、4校において、3次元測量を中心とした課外事業を実施しました。BIM/CIM、3次元測量の高校生への訴求は大変好評で、測量設計業の認知度向上の手ごたえを感じており、本年も引き続き継続していく予定です。

最後になりますが、今後とも当協会並びに会員企業に対し、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。